

2013 年 3 月 28 日
成田国際空港株式会社

2013～2015 年度NAAグループ中期経営計画

「イノベティブ Narita 2015 ～選ばれる空港を目指して～」について

NAAグループは、2013～2015 年度NAAグループ中期経営計画「イノベティブ Narita 2015 ～選ばれる空港を目指して～」を策定いたしましたので、別紙のとおりお知らせいたします。

以 上

成田国際空港株式会社

〒282-8601 千葉県成田市成田空港内 NAAビル
URL: <http://www.narita-airport.jp/jp/>

WORLD
SKY GATE
NARITA

**2013～2015 年度
NAA グループ中期経営計画**

**イノベティブ Narita 2015
～選ばれる空港を目指して～**

**2013 年 4 月
成田国際空港株式会社**

WORLD
SKY GATE__
NARITA

はじめに

成田国際空港は 2013 年に開港 35 周年を迎えます。この 35 年間、日本の表玄関として、空港の安全を最優先に、世界各国と国際航空ネットワークを結び、重要な社会インフラとして国際拠点空港の役割を時代とともに担ってまいりました。

当社グループは、2004 年の民営化以降、経営理念として「国際拠点空港としての役割を果たし、グローバルな航空ネットワークの発展に貢献する、世界トップレベルの空港を目指す」ことを掲げ、事業を展開しております。現在の NAA グループ中期経営計画「Narita エボリューションプラン（成田国際空港“進化・発展”計画）」は、2010～2012 年度の 3 か年計画として 2010 年 3 月に策定され、首都圏及び東アジアの国際拠点空港としてさらなる進化を目指し、「空港機能の充実」「空港利便性の向上」「財務体質の強化」を 3 つの重点施策として取り組んでまいりました。

その結果、空港容量については、地域関係者みなさまのご理解のもと 30 万回の合意をいただくとともに、この 3 年間に空港容量は 22 万回から 27 万回へと段階的に拡大いたしました。また、あらゆる航空ニーズに対応するマルチ・ファンクション・エアポートに向けた取り組みのもと、ビジネスジェット専用ターミナルを供用し、ロー・コスト・キャリア（LCC）を受け入れるべく第 2 旅客ターミナルビル南北国内線施設を供用、LCC 専用ターミナルの整備に向けた取り組みを開始するなど空港機能を強化するとともに、アクセス面では成田スカイアクセスが開業し、都心から空港まで 30 分台の鉄道アクセスを実現いたしました。さらに、投資コントロールを徹底するなどキャッシュ・フロー重視の経営にも取り組み、成田国際空港が次に迎える新たなステージに向けての重要な準備を整えることができました。

成田国際空港は、2013 年夏ダイヤよりオープンスカイを迎えます。世界に目を向ければ、アジアの急速な経済成長を背景に、アジア圏では巨大な国際拠点空港整備が進められ、空港間競争はますます激化している状況のなか、迅速かつグローバルな戦略をもってこれらの競争に勝ち抜いていかなければなりません。

当社グループは、開港以来の最大変化ともいえるこのオープンスカイを大きなチャンスと捉え、世界のゲートウェイとして、航空ネットワークの更なる拡充を図り、あらゆるお客様から選ばれる空港となるための新しいステージの一步を踏み出します。

このような状況をふまえ、NAA グループは、この 3 か年を、「オープンスカイを迎え『お客様から選ばれる空港』を目指す」期間と位置付け、2013 年度を初年度とする、2013～2015 年度 NAA グループ中期経営計画「イノベティブ Narita 2015～選ばれる空港を目指して～」を策定いたしました。

NAA グループの総力をあけて、成田国際空港のあらゆる経営資源を最大限に活用し、環境の変化に迅速かつ柔軟に対応しながら、以下に掲げる施策に取り組んでまいります。

目 次

I	経営環境	2 ページ
II	航空取扱量目標	4 ページ
III	経営目標	4 ページ
IV	目指すべき姿	4 ページ
V	基本戦略	5 ページ
VI	具体的な取り組み	7 ページ
VII	設備投資計画	12 ページ

I 経営環境

世界経済は、依然として欧州債務問題や米国の財政問題、中国経済の回復力などをめぐる先行き不透明感が残存しているものの、アジアにおいては、景気の拡大テンポも持ち直しを見せ始めており、世界の景気は弱い動きから次第に底堅さを増し、緩やかな回復傾向の兆しが出てまいりました。また、日本経済は、海外景気の下振れが日本の景気を下押しするリスクは存在するものの、景気後退局面は終了したとみられ、先行きについては、輸出環境の改善や経済対策、金融政策等によって、次第に景気回復へ向かうことが期待されております。

航空業界においては、世界の航空需要は、アジア太平洋、ラテンアメリカ、中東といった新興経済圏を中心に、今後も更なる拡大が見込まれております。一方、国際情勢や経済動向による影響を受けやすく、さらには、新たなビジネスモデルを展開するLCCの台頭もあり、航空業界における競争環境は厳しさを増しております。この厳しい競争環境のなか、既存のフル・サービス・エアライン（FSA）は航空アライアンスによる共同事業の展開やネットワークの再編等によって、さらなる競争力強化を進めております。また、欧米でマーケットを確立したLCCは、低コストを徹底追求し、アジア諸国の経済成長とともに東南アジアでの急成長を遂げ、今や東アジアでも市場を拡大する勢いとなっております。その一方で、FSAがLCC子会社を設立し、LCCがFSAと提携するなど、航空業界は今後ますます多様化が進むことも想定されます。

我が国の航空行政においては、首都圏空港を含めたオープンスカイ政策が積極的に推進され、成田国際空港においては空港容量 27 万回となる 2013 年夏ダイヤよりオープンスカイがスタートいたします。また、2014 年夏ダイヤから、羽田空港においては、国際線の昼間発着枠が 3 万回増加し、深夜早朝枠を

含めて9万回の国際線枠となります。一方、アジアに目を向けると、韓国の仁川国際空港においては第2旅客ターミナル建設や、香港の香港国際空港では第3滑走路の建設など、空港機能拡張が進められております。このように、国際拠点空港間の競争はますます厳しく、いよいよ航空会社が乗り入れる空港を自由に選ぶ時代、すなわち、空港が選ばれる時代となり、空港間による国際航空ネットワークの路線獲得競争へ突入することとなります。

このような、厳しい経営環境下においても、成田国際空港が開港より築きあげてきた、世界各国とのバランスのよい豊富な国際航空ネットワークは、日本国にとっても非常に重要な資産であると認識しております。日本経済の持続的な発展に必要不可欠なこの国際航空ネットワークを今後もさらに拡充させるため、空港の機能を強化し、選ばれる空港となることが、日本国の未来における重要な役割でもあると自負しております。

Ⅱ 航空取扱量目標

2013 年夏ダイヤからのオープンスカイ、空港容量 30 万回への拡大を最大限に活用し、アジア有数のネットワークを強化するとともに 3 大アライアンスや LCC の拠点化を促進し、国際線及び国内線の路線誘致を積極的に展開することによって、2015 年度の航空発着回数 26 万回、航空旅客数 3,700 万人を目指します。

Ⅲ 経営目標

30 万回対応の施設整備を着実に進め、選ばれる空港となるための諸施策を推進しつつ、以下のとおり 2015 年度経営目標の達成を目指し、財務の健全性向上に取り組んでまいります。

連結 ROA (連結総資産営業利益率)	4.2%以上(連結営業利益 360 億円以上)
連結長期債務残高	5,200 億円以下
連結長期債務残高／連結営業 CF	8.0 倍以下

※上記経営目標を目指すとともに、他のインフラ系上場企業の利益水準等を勘案し、長期的（概ね 10 年後）には次の指標水準を視野に入れ、収益拡大及び経営効率化を継続して図ってまいります。

連結 ROA (連結総資産営業利益率)	6 %台
連結長期債務残高	4,000 億円以下
連結長期債務残高／連結営業 CF	6 倍台

Ⅳ 目指すべき姿

首都圏の多様な航空ニーズに対応できるマルチ・ファンクション・エアポートとして、「お客様から安心で信頼され、選ばれる魅力ある空港」を目指し、将来にわたって東アジアの国際拠点空港としての揺るぎない地位を確立します。

V 基本戦略

この2013～2015年度の3か年は、オープンスカイを迎え、空港容量の拡大と航空ネットワークの更なる拡充等に取り組み「お客様から選ばれる空港」を目指すとともに、キャッシュ・フロー重視の経営を追求し、経営効率化等により引き続き財務の健全性向上を目指す期間とし、以下の3つの基本戦略のもと各施策に取り組むことといたします。

1 安全の徹底追求

- 「安全」は基本であり、すべてに優先するものとして、危機管理体制の強化、運航・運用に係る安全・保安体制の強化等に取り組み、世界トップレベルの安全と安心を徹底追求し、信頼される空港を目指します。

2 選ばれる空港づくり

【1】使い勝手のよい空港に向けて

- 2014年度中に空港容量30万回対応の施設整備を行い、国際線・国内線航空ネットワークの更なる拡充等に取り組み、空港機能の強化・運用効率の向上を図ることによって、使い勝手のよい空港を目指します。

【2】空港コストの低減に向けて

- 空港使用料の引き下げやインセンティブ制度導入、運用コスト削減等に取り組み、空港コストの低減を図り、競争に勝つ空港を目指します。

【3】利便性・快適性の向上に向けて

- 空港入場のノンストップゲート化やi-Airport戦略の推進等、最先端技術の活用と日本が誇るおもてなしの心でお客様をお迎えするさまざまな取り組みを実施し、空港の利便性・快適性を向上し、お客様視点に立った期待を超えるサービスを提供する空港を目指します。

【4】地域社会への貢献に向けて

- 社会や地域の発展に貢献し、地域社会と共生・共栄する空港を目指します。

3 経営体力の強化

【1】非航空収入の拡大に向けて

- 来港者の拡大や店舗面積の拡大に取り組み、非航空収入の拡大を図り、空港内免税店・物販店・飲食店の売上高 800 億円を目指します。

【2】経営効率化に向けて

- 更なる経営環境の変化への対応や 30 万回対応など成長に向けた施設整備を推進しつつ、企業価値の向上を追求するため、経営の効率化を図り、資産効率の向上及び債務残高の更なる削減を目指します。

【3】上場に向けて

- 政府の検討を見守りつつ、株式上場に向けた準備を引き続き進めてまいります。

VI 具体的な取り組み

1 安全の徹底追求

【1】危機管理体制の強化

- 大規模地震対策、新型インフルエンザ対策、航空機事故等重大事故に備えた更なる体制の強化を図るとともに、国際テロ・過激派対策及び不法侵入対策等のセキュリティを徹底し、危機管理体制を強化します。

【2】運航・運用に係る安全・保安体制の強化

- 安全管理システムに係る活動を通じた安全の向上、施設保全の着実な実施、ICAO¹及び国の安全指針等に沿った施策の着実な推進、安全に関わる情報共有や再発防止の徹底ならびに安全意識・安全風土・安全文化の醸成を図り、運航・運用に係る安全・保安体制を強化します。

2 選ばれる空港づくり

【1】使い勝手のよい空港に向けて

（1）空港容量の拡大

①空港容量 30 万回化の実現

- 2014 年度中の空港容量 30 万回化を実現するため、LCC 専用ターミナルビルを整備するとともに LCC 専用ターミナルビル前面や第 1 旅客ターミナルビル第 5 サテライト南側地区等に駐機場を整備します。

②将来展開計画

- 成田国際空港の将来展開計画について、首都圏の需要動向を見つつ本計画期間中に検討します。

（2）航空ネットワークの更なる拡充

成田国際空港の強みである豊富でバランスのとれた国際線ネットワーク（中長距離路線）の更なる強化に加え、今後拡大余地のある 4,000km 未満のアジア近距離路線並びに国内路線を拡充するための取り組みを展開します。

※成田国際空港が目指す航空ネットワークの拡充をあらわす指標として、空港別「有効座席キロ（ASK：Available Seat Kilometers）」を用い、路線距離や機材規模を含めた成田国際空港のネットワーク力を検証し、アジア No.1 を目指します。

¹ ICAO：International Civil Aviation Organization 「国際民間航空機関」

① 3 大アライアンス拠点化への対応

- ピーク時間における運用の効率化を図るため、第1旅客ターミナルビル第4サテライト南側及び第2旅客ターミナルビル南側地区に駐機場を整備します。
- 第1旅客ターミナルビル南ウイングの能力増強として、入国審査場及び税関検査場の拡張、BHS²の能力増強等を実施します。
- 第1旅客ターミナルビル北ウイングの能力増強として、BHSの増設やチェックイン、Fast Track³等、機能やサービスの強化に取り組みます。
- 第2旅客ターミナルビル施設改良として、到着階リニューアル、本館サテライト連絡通路の整備等を実施します。
- 第1旅客ターミナルビル第5サテライト及び第2旅客ターミナルビル本館南側の固定ゲートを延伸します。
- 乗り継ぎ施設の機能強化として、乗り継ぎ検査場のセキュリティ検査レーンやBHSの増設を行います。
- アライアンスの成長に応じた中長期的な施設展開に取り組みます。

② LCC 拠点化への対応

- 2014年度末までにLCC専用ターミナルビルを整備します。

③ 航空会社のあらゆるニーズへの対応

- 地元地域のご理解のもと、カーフェューの弾力的運用を丁寧に進めます。
- ピーク時間帯の時間値（時間あたり発着枠）の拡大に向けた取り組みを関係機関と連携して進めます。
- 大型航空機（A380型機）の就航を受け入れるための施設整備を展開します。
- 国内路線のさらなる充実を図るため、バスゲートの増設等国内線施設の機能強化に取り組みます。
- 航空物流機能の強化を図るため、貨物地区の混雑緩和、動線の簡素化等、効率化の取り組みを進めるとともに、将来の貨物需要に応えるための上屋再配置等、施設展開計画を策定します。
- ビジネスジェットの利用促進のため、国内外のオペレーター（運航者）へのPR等、多様なチャンネルを活用した積極的な営業を展開します。

² BHS : Baggage Handling System 「手荷物取扱施設」

³ Fast Track : 「優先レーン」

- エアライン事業部を新設し、航空会社のニーズを的確に捉えて迅速に対応するとともに、マーケティングやプロモーションの強化を図り、積極的な路線誘致や海外の空港等と連携した航空需要の喚起策に取り組みます。

【2】空港コストの低減に向けて（料金政策等）

- 2013 年 4 月より、国際線着陸料及び国際線 BHS 料金を引き下げるとともに、インセンティブ制度の一環として国際線着陸料の増量割引を導入します。
- 受益と負担の適正化の観点から、空港使用料（国内線に係る旅客取扱施設利用料など）のあり方について検討を進めます。
- 2014 年度中の完成を目指す LCC 専用ターミナルビルにおいて、建設コスト削減、低コスト運用を図り、航空会社の低コストオペレーションが可能となる環境を整えます。
- 引き続き競争環境を踏まえ、空港コストの低減に向けた取り組みを進めます。

【3】利便性・快適性の向上に向けて

- 空港へ来港されるお客様への快適な入場環境を整えるため、入場ゲートに機械設備等を導入し警備の質を向上させ、ノンストップゲート化を実現します。
- 無料 Wi-Fi エリアの拡大を図り、インターネット環境を充実します。
- 空港をご利用されるお客様へ最適かつわかりやすい情報を提供するため、最先端 ICT（Information and Communication Technology）を活用し、i-Airport 戦略を推進します。
 - （a）わかりやすい情報を提供するため、スマートフォン等へのサービス強化や多言語対応の促進、館内位置情報サービスの高精度化を図ります。
 - （b）最適な情報を提供するため、デジタルサイネージとの連携やデジタルコンシェルジュの導入を図ります。
 - （c）移動に快適な情報を提供するため、保安検査場から出国審査場を通過するまでの待ち時間表示を導入します。
- 空港内の手続きを簡素かつ快適に行うため、関係機関と連携し、チェックイン手続きの自動化（Fast Travel（IATA））や保安検査の効率化（Checkpoint of the Future（IATA））、出入国自動化ゲートの促進（法務省）等の取り組みを積極的にサポートします。

- Fast Track、VIP 動線の更なる導入等、お客様へのサービス充実に取り組みます。
- 深夜早朝便をご利用されるお客様の利便性向上を図るサービスを展開します。
- 空港アクセスの更なる改善を図るため、圏央道延伸をふまえた道路系アクセスの充実に向けてバス会社等と連携した取り組みを進めます。また、鉄道・バス等の交通情報サービスの充実、空港内駐車場サービスの向上に取り組みます。
- 空港スタッフの CS 意識の更なる向上を図るため、CS AWARD⁴やオアシスプロジェクトの推進等、空港内企業と連携した取り組みを進めます。

【4】地域社会への貢献に向けて

- 30 万回の空港容量拡大、カーフューの弾力的運用等空港機能強化に伴う地域との共生策や環境対策を適切かつ確実に実施し、これまで築き上げてきた地域との信頼関係のさらなる醸成を図るとともに、地域と空港の共生・共栄に向けた取り組みを推進します。
 - (a) 防音工事の拡充及び恒久化を確実に実施していきます。
 - (b) カーフュー内運航や飛行コースに関する情報公開を推進します。
 - (c) 成田空港を活かした空港周辺市町の地域振興策に協力し、地域と空港の共栄に向けた取り組みを推進します。
- グレード・アップ「ナリタ」活用戦略会議⁵の提言を受けて設立される「(仮称) 成田空港活用協議会」に参画し、30 万回化合意以降拡大していくビジネスチャンスを生かした空港周辺地域はもとより、千葉県経済全体の活性化につなげていく活動に協力してまいります。
- 「エコ・エアポートとして世界をリードする空港」をコンセプトに、エコ・エアポート基本計画（2011-2015 年度）に掲げる環境への取り組みを着実に推進します。また、空港関連事業者が連携し、成田国際空港エコ・エアポート推進協議会を中心とする環境への取り組みや環境意識の啓発を図ります。

⁴ CS AWARD：空港スタッフや空港内企業・団体への表彰制度

⁵ グレード・アップ「ナリタ」活用戦略会議：千葉県を事務局とし、成田空港の新たな動向を県勢発展につなげるため、官民一体となって経済活性化のために必要な方策の検討を行い、2012 年 9 月に提言を取りまとめ。

3 経営体力の強化

【1】非航空収入の拡大に向けて

（1）リテール事業

①来港者の拡大

- 発着回数の増加に伴い増していくご出発・ご到着のお客様のみならず、一般のお客様にも成田国際空港に足を運んでいただけるような取り組みを実施します。

②店舗面積の拡大

- LCC 専用ターミナルビルや第1・第2旅客ターミナルビルのショッピングエリアを拡充します。また、お客様利便向上に資する空港内免税店等の新たな対策について引き続き取り組みます。

③売上効率の向上

- 既存店舗の刷新・リニューアルを継続的に実施するとともに、店舗との連携を強化し成田国際空港ならではの魅力あふれる商業空間づくりに取り組みます。

（2）海外事業等

- 空港運営のノウハウを活かした、海外空港コンサル事業等を推進します。

【2】経営効率化に向けて

- 効率的な経営体制を目指し、本社組織の整理統合を実施します。
- 子会社の業務処理共通化に取り組むとともに、各社のミッションの明確化と事業範囲の見直しを図り、収益性の低い事業から撤退、子会社統廃合等を実施します。
- 空港建設運営のノウハウや外部コンサルタントを活用し、施設整備コストの削減や運用コストの削減を図ります。
- 社長をトップとするコスト削減推進委員会（仮称）を設置し、グループ全体のコスト削減体制を構築し、継続的な経営効率化を目指します。

【3】上場に向けて

- 政府の検討を見守りつつ、株式上場に向けた準備を引き続き進めます。

Ⅶ 設備投資計画

安全の徹底追求、選ばれる空港づくりに向けた戦略的投資とともに、経営体力の強化策としての非航空収入の拡大に向け、本計画期間（2013～2015 年度）において、1,450 億円（連結）の設備投資を行います。なお、設備投資については営業キャッシュ・フローで賄います。

安全の徹底追求	550 億円
選ばれる空港づくり	860 億円
経営体力の強化（非航空収入の拡大に向けて）	40 億円

以 上

2013～2015年度 NAAグループ中期経営計画

イノベティブ Narita 2015

～選ばれる空港を目指して～

成田国際空港株式会社

2013年3月28日

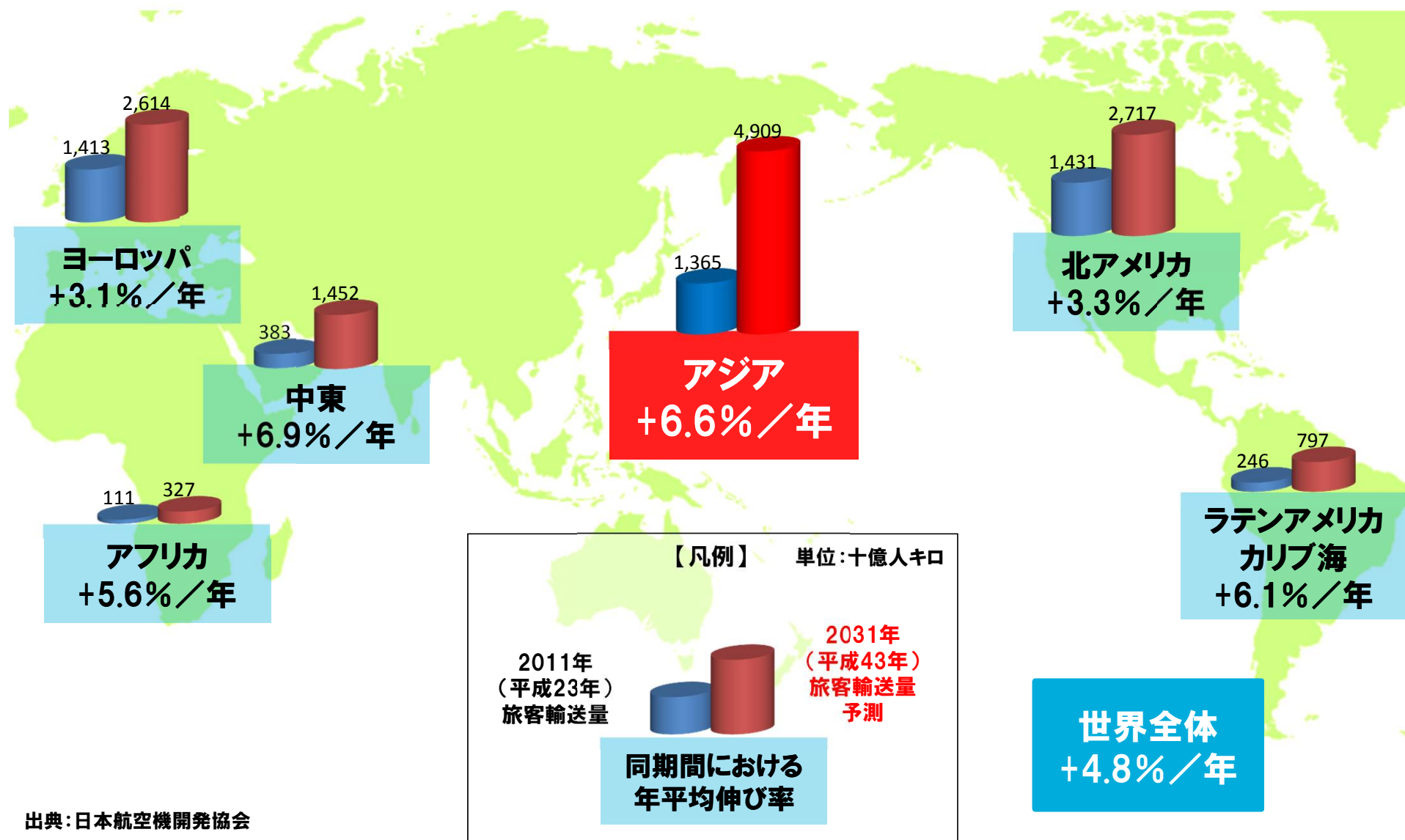


WORLD SKY GATE _ **NARITA**

I. 経営環境	P.2～4
II. 中期経営計画の位置づけ	P.5
III. 航空取扱量目標	P.6～7
IV. 経営目標	P.8～9
V. 目指すべき姿	P.10
VI. 基本戦略	P.11
VII. 具体的な取り組み	P.12～14
VIII. 設備投資計画	P.15
参考:料金政策	P.16

I. 経営環境

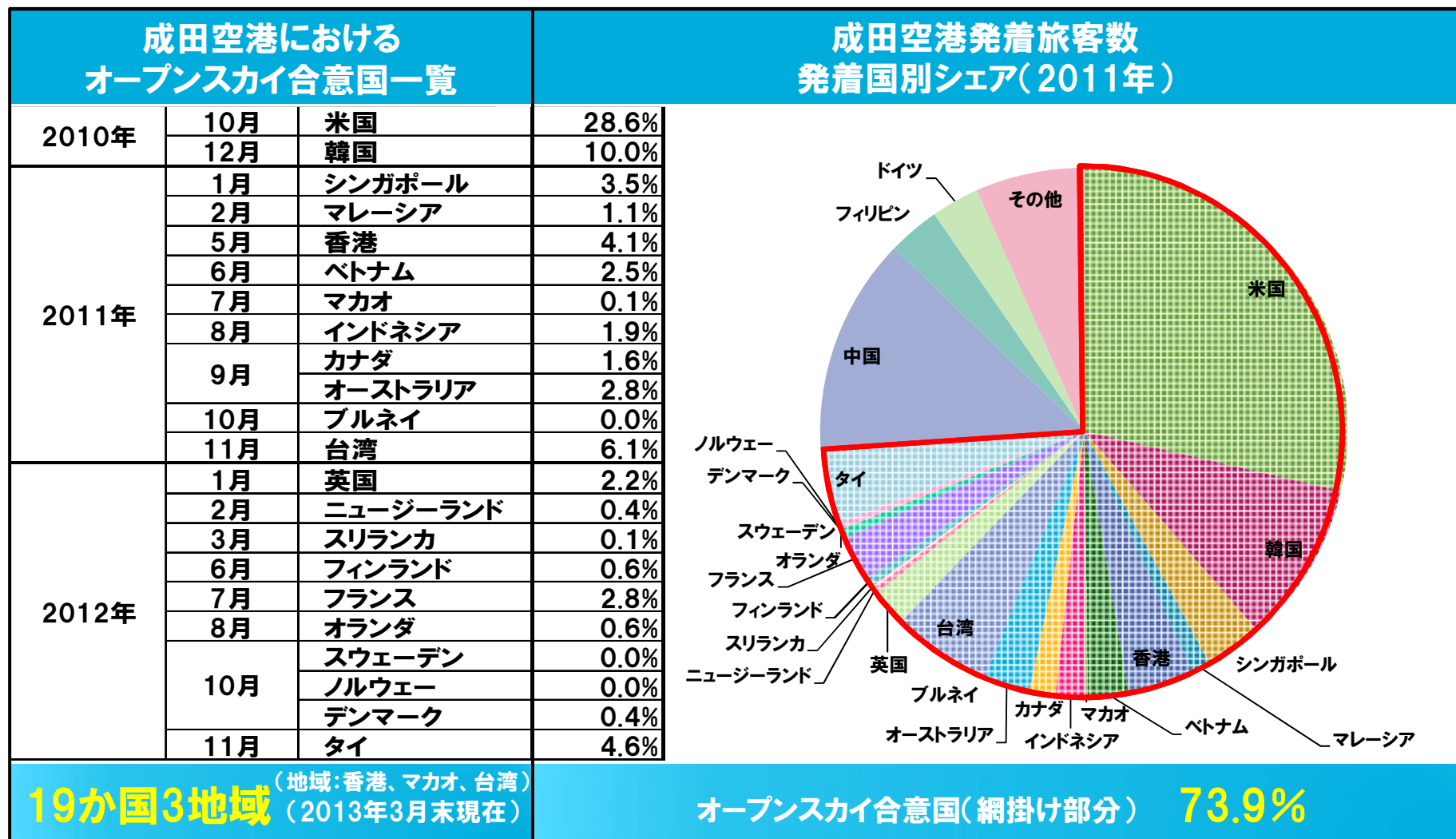
世界の航空旅客輸送量予測(2011年～2031年)



出典: 日本航空機開発協会

成田国際空港を取り巻く環境 —オープンスカイの進展—

成田国際空港におけるオープンスカイの合意状況



※出典: ADI(Sabre社 Airport Data Intelligence)をもとにNAA作成
※通過客含む

成田国際空港を取り巻く環境 ー空港間競争ー

羽田空港の国際線二次増枠



2013年度末に羽田空港の国際線枠が
6万回から9万回に(うち昼間時間帯6万回)

アジア主要空港の著しい成長



アジア主要空港の今後の主な施設の整備予定

- ソウル: 仁川空港 第2ターミナル
- 香港: 香港空港 サテライト拡張、第3滑走路
- 北京: 北京第2空港
- 上海: 浦東空港 第4,5滑走路
- シンガポール: チャンギ空港 第4ターミナル、第3滑走路
- クアラルンプール: クアラルンプール空港 第2ターミナル、第3滑走路

空港間競争の激化

II. 中期経営計画の位置づけ



Ⅲ. 航空取扱量目標

- 2013年夏ダイヤからのオープンスカイ、空港容量30万回への拡大を最大限に活用
- アジア有数のネットワークを強化するとともに3大アライアンスやLCCの拠点化を促進
- 国際線及び国内線の路線誘致を積極的に展開



2015年度 航空取扱量目標

1. 航空機発着回数

26万回 (21.4万回)

2. 航空旅客数

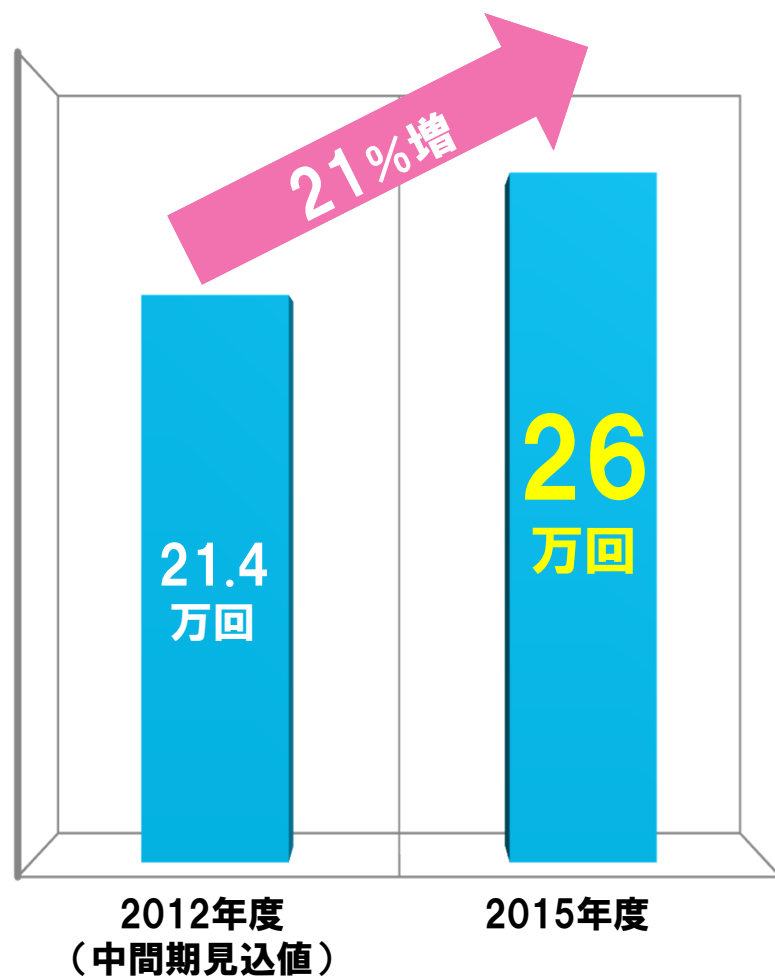
3,700万人 (3,386万人)

※()内の数値は2012年度中間期見込値

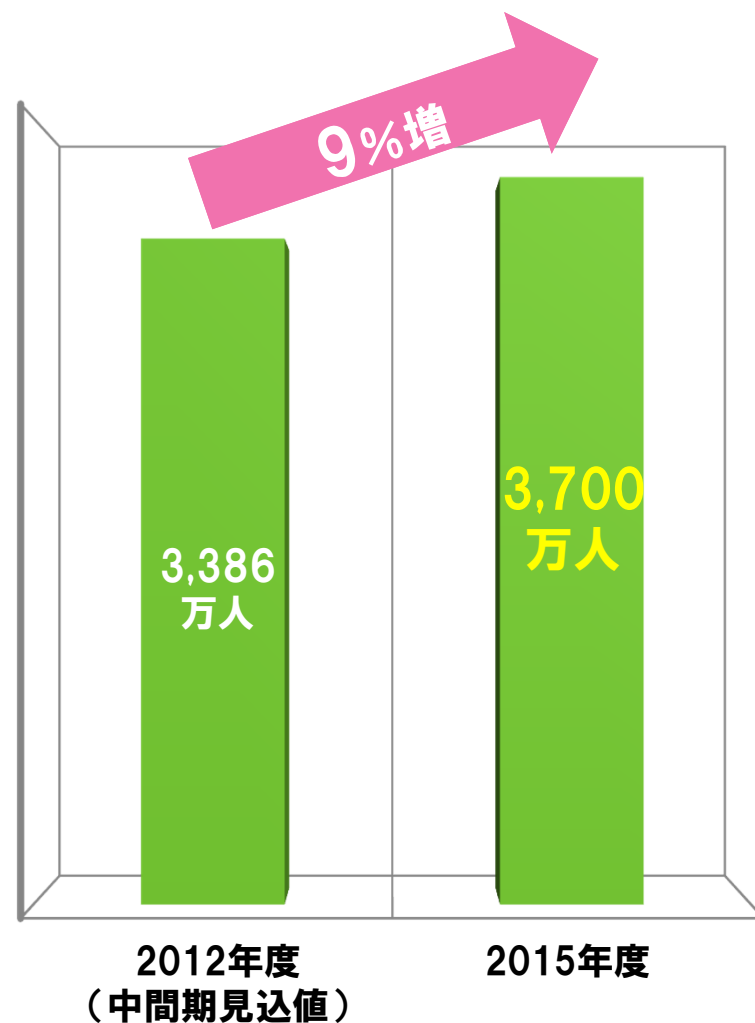
航空取扱量目標

7

航空機発着回数



航空旅客数



IV. 経営目標

- 30万回対応の施設整備を着実に進め、選ばれる空港となるための諸施策を推進
- 2015年度経営目標の達成を目指し、財務の健全性向上に取り組む



2015年度 経営目標

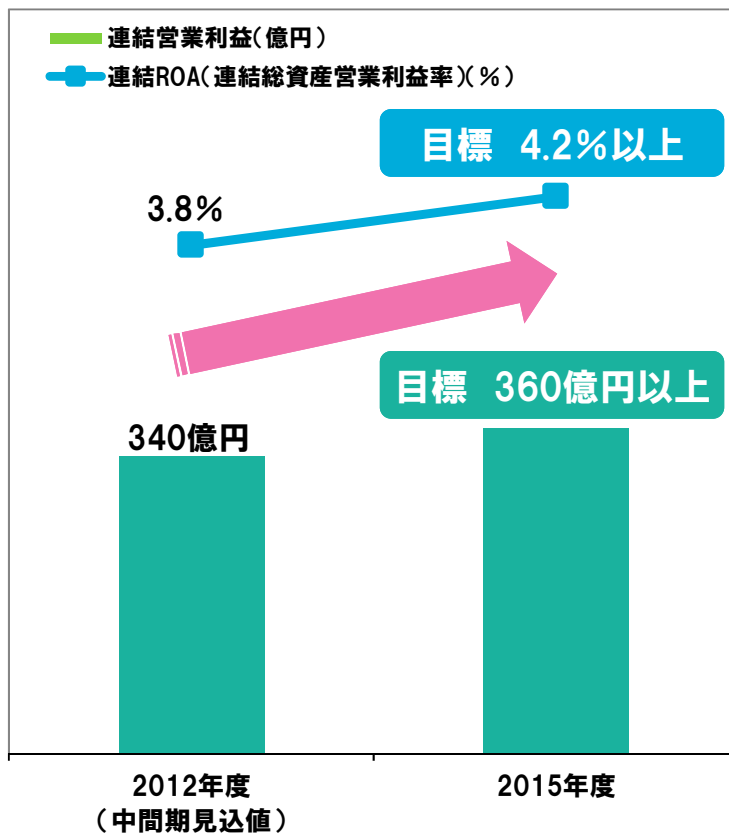
1. 連結ROA(連結総資産営業利益率) 4.2%以上(連結営業利益360億円以上)
2. 連結長期債務残高 5,200億円以下
3. 連結長期債務残高／連結営業CF 8.0倍以下

経営目標

9

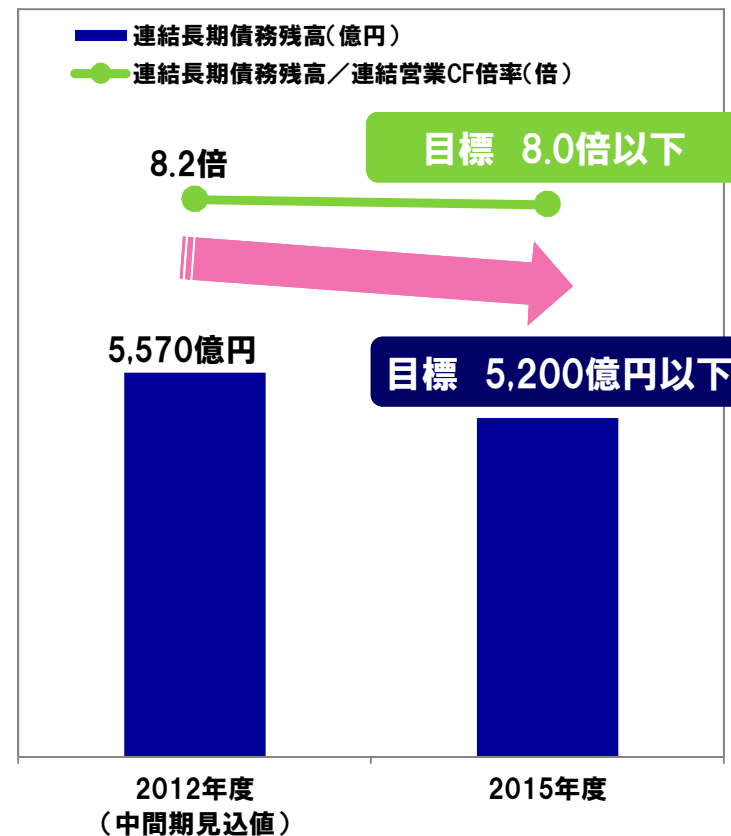
連結ROA(連結総資産営業利益率)

非航空収入の拡大と経営効率化によって、
資産効率の向上を目指す



連結長期債務残高／連結営業CF

設備投資については営業キャッシュ・フローで賄い、
債務残高の削減を目指す



V. 目指すべき姿

首都圏の多様な航空ニーズに対応できる
マルチ・ファンクション・エアポートとして、
「お客様から安心して信頼され、選ばれる魅力ある空港」
を目指し、将来にわたって東アジアの国際拠点空港としての
揺るぎない地位を確立します。

VI. 基本戦略

航空需要はアジアを中心に今後も成長
LCCの台頭 航空会社の競争の激化

空港間競争 の激化

オープンスカイの進展 羽田の国際線二次増枠
アジア主要空港の著しい成長

基本戦略3本柱

安全の徹底追求

- 危機管理体制の強化
- 運航・運用に係る安全・保安体制の強化

選ばれる空港づくり

- 使い勝手のよい空港づくり
- 空港コストの低減
- 利便性・快適性の向上
- 地域社会への貢献

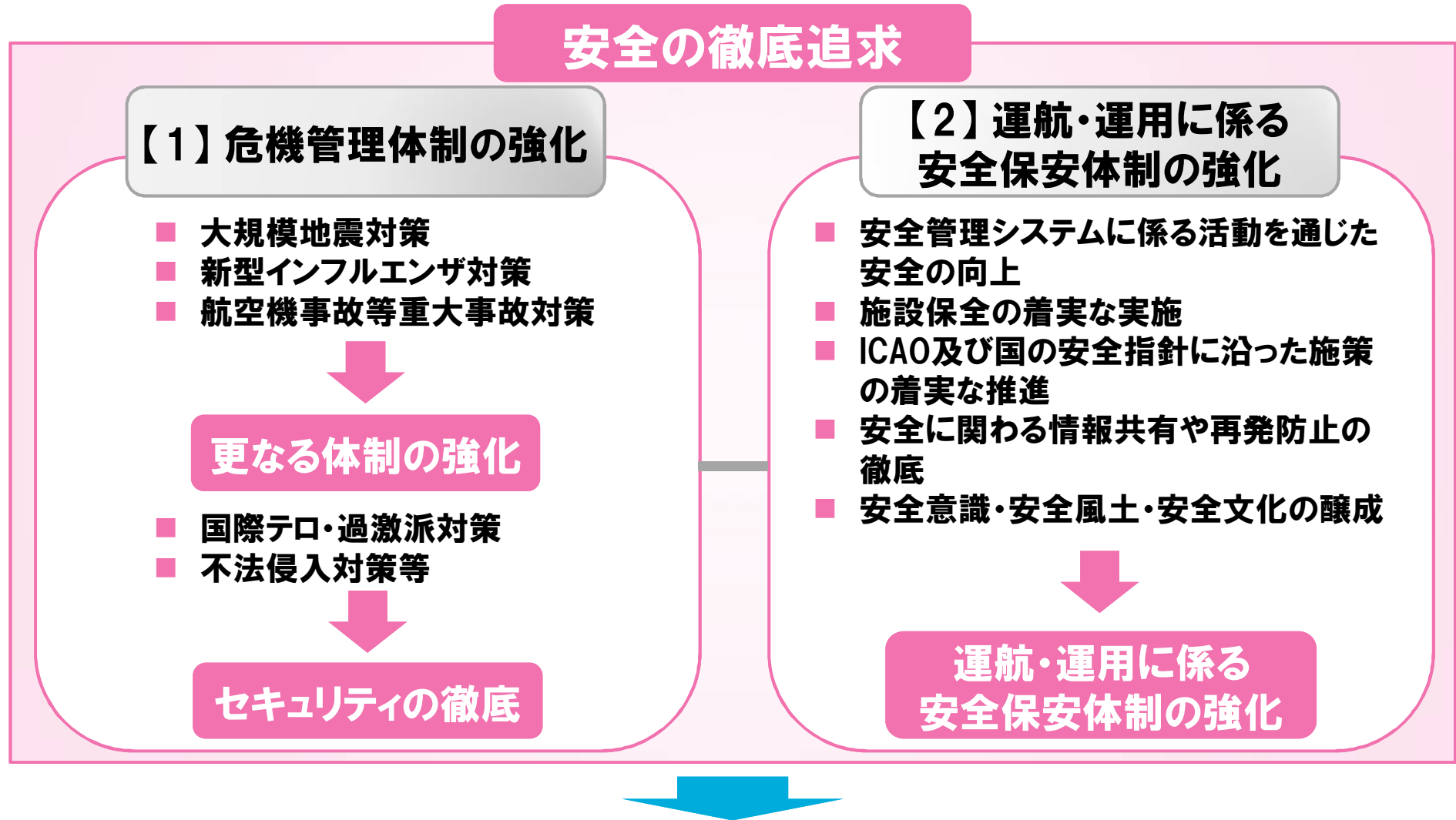
経営体力の強化

- 非航空収入の拡大
- 経営効率化
- 上場に向けて

お客様から安心して信頼され、選ばれる魅力ある空港

VII. 具体的な取り組み

1. 安全の徹底追求



世界トップレベルの安全と安心を徹底追求し、信頼される空港を目指す

2. 選ばれる空港づくり

選ばれる空港づくり

【1】使い勝手のよい空港に向けて

- 空港容量の拡大(30万回化の実現)
- 航空ネットワークの更なる拡充
(3大アライアンス拠点化への対応、
LCC拠点化への対応、
航空会社のあらゆるニーズへの対応) など

【2】空港コストの低減に向けて

- 料金政策
- LCC専用ターミナルにおけるコスト削減策 など

【3】利便性・快適性の向上に向けて

- ノンストップゲート化
- インターネット環境(無料Wi-Fi)の充実
- CS意識の更なる向上 など

【4】地域社会への貢献に向けて

- 地域との共生策や環境対策の確実な実施
- 共生・共栄に向けた取り組みを推進
- エコ・エアポートの推進 など

国際線・国内線ネットワークの更なる拡充を目指す

3. 経営体力の強化

経営体力の強化

【1】非航空収入の拡大に向けて

- リテール事業の強化
(売上高800億円※を目指す)
 - 海外事業等の推進 など
- ※空港内免税店・物販店・飲食店の売上高

【2】経営効率化に向けて

- 本社組織等の見直し
- グループ全体でのコスト削減への取り組み など

【3】上場に向けて

- 株式上場に向けた準備

財務の健全性向上を目指す

VIII. 設備投資計画

設備投資計画(2013~2015年度)

総額 1,450億円

1. 安全の徹底追求

550億円

- 安全・安定運用のための投資(ターミナル前高架橋耐震補強 等)
- 更新投資(パイプライン計装制御設備更新 等)

2. 選ばれる空港づくり

860億円

- 30万回対応投資(LCC専用ターミナルビル整備、駐機場増設 等)
- 機能向上投資(ターミナルビル能力増強、駐機場増設 等)

3. 経営体力の強化

40億円

- 非航空収入拡大に向けた投資(第1旅客ターミナルビル商環境リニューアル 等)



参考：料金政策

国際線空港使用料金の見直し(2013.4.1～)

■ 国際線着陸料の改定

【目的】 来たるべきオープンスカイを控え、成田空港の国際線ネットワークの拡大及びアジア地域における競争力強化のため

周辺環境に配慮した低騒音機導入を今まで以上に促進するため

【料金】 騒音に応じたA～F各ランク、それぞれ▲100円/トン引下げ（平均▲5.5%引下げ）

■ 国際線手荷物取扱施設（BHS）使用料の区分見直し・料金引下げ

【目的】 乗り入れ機材の多様化に伴い、座席数に応じた多段階の区分とするため

【料金】 現行の「101席以上」の区分を「101～200席」、「201～300席」、「301席以上」の3区分に多段階化、及び各区分の単価引下げ（平均▲10.6%引下げ）

国際線着陸料増量割引の導入(2013.4.1～2016.3.31 ※3年間)

【目的】 来たるべきオープンスカイを控え、成田空港が“選ばれる空港”となるため
国際線ネットワーク拡大及びアジア地域における競争力強化のため

【内容】 着陸重量が、前年同期比で増加した場合に、増加重量に対して50%の割引を適用